

1 回目穂肥は必ず生育診断を行い慎重に判断！
2 回目穂肥は後期栄養維持のため、確実に施用！

1. 6月29日現在の水稻生育状況（なんかん管内調査圃場平均）
- コシヒカリ：草丈並、茎数やや少ない、葉数並、葉色やや淡い状況です。

○ こしいぶき：草丈やや長い、茎数少ない、葉数並、葉色やや濃い傾向です。

品種	草丈（cm）			茎数（本/㎡）			葉数（葉）			葉色（SPAD）		
	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標	本年	前年	指標
コシヒカリ	56	61	55	436	434	480	9.9	10.1	9.7	37.8	40.3	39.0
こしいぶき	56	59	52	473	507	550	10.4	10.4	10.5	40.8	43.3	38.0

※コシヒカリ元肥一発体系の場合、葉色(SPAD)指標値は『40.0』となります
7/10 指標値：SPAD 値 36.5＝葉色板 4.6～4.7（この数値の読み替えはコシヒカリ分施・単葉・出穂前 24～21 日のもの）

2. 幼穂形成期・出穂期予想と穂肥施用のめやす（6月29日現在の予測）
- 幼穂形成期・出穂期は平年より2日早い予想です(今後の気象により変動することがあります)。

品種	田植日	形成期穂	出穂期	穂肥 1 回目			穂肥 2 回目		
				施用時期	出穂前日数	窒素量(kg/10a)	施用時期	出穂前日数	窒素量(kg/10a)
こしいぶき	5/5～10	7/1	7/24	7/1	23	1.0	7/10	14	1.5
こがねもち	5/5～10	7/4	7/28	7/10～13	18～15	1.0～1.5	7/18	10	1.0～1.5
あきだわら	5/5～10	7/17	8/10	7/16～18	25～23	2.0～3.0	7/27	14	3.0
コシヒカリ	5/5	7/9	8/2	7/15～18	18～15	1.0～1.5	7/23	10	1.0～1.5
	5/10	7/11	8/4	7/17～20			7/25		
	5/15	7/13	8/6	7/19～22			7/27		
	5/20	7/15	8/8	7/21～24			7/29		
	直播	7/16	8/9	7/22～25			7/30		

- 穂肥を多量に施用したり、時期が早過ぎたりすると草丈の伸長や、籾数過剰、登熟歩合の低下などが起こるため、適期に適量を施用しましょう。
- 2 回目の穂肥（出穂期 10 日前頃）は節間の伸長にほとんど影響しないので、後期栄養を維持し、登熟向上と品質低下防止のため確実に施用しましょう。
- 元肥一発肥料を施用していて、出穂前 10 日で止葉の下葉（第2葉）の葉色が葉色板（カー・スケール）で 4.2～4.3、SPAD 値で 32～33 を下回っている場合、速効性化学窒素肥料で窒素成分 1 kg/10a を超えない量を追肥してください。
- 3 割減・5 割減(こだわり米)栽培の化学窒素許容量を超えない量で散布をお願いします。

◎有機由来窒素割合によって、化学窒素 100%の肥料より施用時期を早める必要があります。

有機由来窒素割合	施用を早める日数	肥 料 名
20%以下	早めなくてよい	穂肥 500 号
30～40%	1～2 日	越後の輝き有機 3 0 穂肥
50～60%	2～3 日	越後の輝き有機 5 0 穂肥
100%	5～7 日	有機アグレット 673、味好 2 号

3. 生育は圃場毎に差があるので、必ず生育診断を行って穂肥時期・量を判断しましょう。

（1）穂肥 1 回目：**幼穂長**を確認

幼穂長と出穂前日数の関係

幼穂長 (cm)	0.1	0.13	0.2	0.5～1.0	4.0～6.0
出穂前日数	24	23	20	18	12

コシヒカリ穂肥 1 回目適期

※幼穂長の測り方は、「売れる米づくり技術情報 No. 4」をご確認ください。

◎1 回目穂肥時のコシヒカリ生育めやす

診断項目	基準数値	診断のポイント
草 丈	75cm	長い場合は下位節間の伸長を抑えて倒伏を軽減するために、遅らせて施用しましょう。
茎 数	60 株植え 22 本／1 株 50 株植え 27 本／1 株	多い場合は <u>控えめ</u> に施用しましょう。
葉 色	SPAD 34(葉色板 群落 3.5/単葉 4.4)	濃い場合は <u>控えめ</u> に施用しましょう。

（2）穂肥 2 回目：**葉耳間長**

○ 止葉の葉耳と、その下の葉(第2葉)の葉耳の間隔を確認して、同じ位置にあれば出穂 9 ～ 1 0 日前です。

止葉→

← 第2葉

葉耳間長 0 cm

コシヒカリ穂肥 2 回目適期

4. 幼穂形成期以降は浅水の間断かん水から飽水管理に移行しましょう。
- コシヒカリの基肥一発肥料体系で「草丈長い・葉色濃い」場合は、下位節間の伸長を抑制するため間断かん水を継続しましょう。

5. 斑点米カメムシ対策のため、草刈り・防除の徹底をお願いします。
- ※今後も高温傾向が予想され、カメムシの多発に注意が必要な状況です。

雑草管理	○ 畦畔や農道の草刈りを継続し、出穂期以降も雑草種子が結実しない状態を維持する。 ○ ヒエ・ホタルイ等、カメムシ類の水田侵入・増殖を助長する水田内雑草を除草する。 ○ 刈取った草や枯れ草は放置すると、カメムシや全面着色粒原因菌の温床となるため除去する。
薬剤防除	○ 防除薬剤によっては 2 回の散布が必要。また、圃場全体に基準量を散布する（額縁防除だけでは不十分）。 ○ 粒剤は適正な水深を守って散布する。 ○ 共同防除地域で、早生の出穂期が防除日より 10 日以上早い場合は追加防除をする。 ○ 個人防除地域では、出穂期以降の薬剤防除を準備する。

6. いもち病・紋枯病防除
- いもち病多発生地域や弱い品種作付け圃場等を見回り、早期発見・早期防除に努めましょう。
- 紋枯病が前年多発生した圃場は今年も多発生しやすくなります。特にこしいぶきは紋枯病に弱いため、7 月 10～20 日頃圃場を見回り、発生を確認した場合は早めに防除しましょう。
- ※ 裏面に病虫害防除剂等一覧表と薬剤防除時の注意点を掲載しました。参考に対応してください。

【お問い合わせ先】

なんかん北宮農センター米穀課：0256-47-1429
なんかん南宮農センター米穀課：0258-61-2903

◆令和5年 病害虫防除剤等の使用方法と適用病害虫一覧◆

農薬登録状況確認日：令和5年6月29日

《粒剤・豆つぶ剤散布の注意点》散布前に確実に止水し、3cm程度（豆つぶ：3～5cm）湛水した状態で散布する。散布後は飽水管理を行い4～5日間は水を保ち、7日間は落水、かけ流しをしない。

防除対象病害虫	薬剤名	剤型	規格	成分カウント	10a 当り 使用量	散布回数	使用回数 (限度)	使用時期（出穂期基準）		摘要病害虫												備 考 使用上の注意等
								登録内容	使用適期	いもち病	紋枯病	穂（こま葉）枯れ病	稲こうじ病	墨黒穂病	変色米	カメムシ類	ウンカ類	ツマゲロヨコバイ	ニカメイチュウ	イナゴ類	フタオビコヤガ	
カメムシ	スタークル ※こだわり米使用可	粉剤 DL	3 kg	1	3kg	1	3 回 以内	収穫 7 日前まで	出穂期 3 日後(穂揃期)～出穂後 7 日後							○	○	○	○	○	○	斑点米カメムシの他各種害虫に高い効果。
		粒剤	3 kg		3kg				出穂期～出穂期 7 日後							○	○	○	○			湛水状態(深い部分で 3cm)で散布。深水は厳禁！
		液剤 10	500ml		1000 倍希釈 60～150ℓ				出穂期 3 日後(穂揃期)～出穂後 7 日後							○	○	○				稲の生育段階に合わせて薬液散布量を調整する。
		豆つぶ	250g		250～500g				出穂期～出穂期 7 日後							○	○	○				散布が簡単な豆つぶ剤。 湛水状態(3cm～5cm)で散布。水を浅くし過ぎない。
	キラップ	粉剤 DL	3 kg	1	3～4 kg	1	2 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期 3 日後(穂揃期)～出穂期 7 日後							○	○			○		フロアブルは 2000 倍希釈でイナゴ類にも有効。 また、アカヒゲホソミドリカスミカメ以外のカメムシが多い場合は、1000 倍希釈とする。
		フロアブル	500ml		1000～2000 倍希釈 60～200ℓ											○	○			○		
	エクシード	フロアブル	500ml	1	2000 倍希釈 60～150ℓ	1	3 回 以内	収穫 7 日前まで	出穂期 7 日後							○	○	○		○		新規系統スルホキシルイミン系殺虫剤。斑点米カメムシ類に高い効果。
	トレボン	粉剤 DL	3 kg	1	3～4 kg	2	3 回 以内	収穫 7 日前まで	1 回目：出穂期の 7 日後 2 回目：1 回目の 7～10 日後							○	○	○	○	○	○	10a 当たり 3～4 kg 散布。 10a 当たり 4kg 散布でイネツトムシにも効果。
いもち	ブラシン	粉剤 DL	3 kg	2	3～4kg	－	2 回 以内	収穫 7 日前まで	穂いもち対象：出穂期 葉いもち対象：見つけ次第防除。	○		○	○		○							いもち病の他、ごま葉枯病、変色米など穂枯れ性病害にも有効な総合殺菌剤。粉剤 DL は 10a 当り 4kg 散布で稲こうじ病にも有効。
		フロアブル	500ml		1000 倍希釈 60～150ℓ	－				○		○	○	○	○							
	トライ	フロアブル	500ml	1	1000 倍希釈 60～150ℓ	－	2 回 以内	収穫 14 日前まで	穂いもち対象：出穂期 葉いもち対象：見つけ次第防除。	○		○	○								新系統の有効成分テブフロキンがいもち病の予防と治療の効果を発揮。稲こうじ病にも有効。	
	ゴウケツ	粒剤	3 kg	1	3～4 kg	1	1 回 以内	出穂 5 日前まで 但し収穫 30 日前まで	穂いもち対象：出穂期 20～10 日前 葉いもち対象：出穂 14 日～10 日前	○											新系統のいもち病予防剤。水深 3cm 程度の湛水状態で散布。	
紋枯	バリダシン ※こだわり米使用可	粉剤 DL	3 kg	0	3～4kg	1	5 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂 10 日前～出穂期直前		○											病斑進展阻止効果が高い。病斑の進展を確認してから株元、葉鞘部に対してむらなく散布する。
		液剤 5	500ml		1000 倍希釈 60～150ℓ						○											
リンバー	粒剤	3 kg	1	3～4kg	1	2 回 以内	収穫 30 日前まで	出穂 25～10 日前		○												出穂 25 日～10 日前頃が散布適期。 水深 3cm 程度の湛水状態で散布。
いもち 紋枯	ブラシンバリダ	フロアブル	500ml	2	1000 倍希釈 60～150ℓ	－	2 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期 葉いもちは見つけ次第防除。	○	○	○			○							いもち病、紋枯病の他、穂枯れ性病害にも有効。出穂直前の防除で各種病害を同時防除。
稲こうじ 墨黒穂	Z ボルドー	粉剤 DL	3 kg	0	3～4kg	1	－	出穂 10 日前まで	出穂期 20～10 日前				○	○								出穂 10 日前までに散布。10a 当り 4kg 散布で墨黒穂病にも効果。
	モンガリット	粒剤	3 kg	1	3～4kg	1	2 回 以内	収穫 45 日前まで	出穂期 21～14 日前		○	○	○	○								水深 3cm 程度の湛水状態で散布。紋枯病にも有効で、10a 当り 4kg 散布で穂枯れ（ごま葉枯病菌）にも有効。
いもち カメムシ	ビームスタークル	粉剤 5 DL	3 kg	2	3～4kg	1	3 回 以内	収穫 7 日前まで	出穂期	○		○				○	○	○		○		10a 当り 4kg 散布で穂枯れ（ごま葉枯病菌）にも有効。
		粉剤 DL	3kg	2	3～4kg	1	2 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期	○						○	○					トライとキラップとの混合剤。
	フロアブル	500ml	1000 倍希釈 60～150ℓ		○							○			○	○						
	ブラシンキラップ	粉剤 DL	3kg	3	3～4kg	1	2 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期	○		○				○	○					
フロアブル		500ml	1000 倍希釈 60～150ℓ		○										○	○						
いもち 紋枯 カメムシ	トップジンスタークル ※こだわり米使用可	粉剤 DL	3 kg	2	3～4 kg	1	3 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期	○	○					○	○	○				トップジンとスタークルの混合剤。 病気と害虫を同時に防除。
		フロアブル	1 ℓ		500 倍希釈 60～200ℓ					○	○		○	○		○	○	○				
	ゴウケツモンスター	粒剤	3 kg	3	3 kg	1	1 回 以内	出穂 5 日前まで 但し、収穫 45 日前まで	①穂いもち・カメムシ類対象の防除 ⇒出穂 10～5 日前 ②穂いもち・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類対象の防除⇒出穂 3～2 週間前	○	○	○	○	○		○	○	○			○	ゴウケツとモンガリットとスタークルの混合剤。病気と害虫を同時防除可能。水深 3cm 程度の湛水状態で散布。
	ビームバシスタークル	粉剤 5 DL	3 kg	3	3～4kg	1	3 回 以内	収穫 14 日前まで	出穂期	○	○	○				○	○	○		○		10a 当り 4kg 散布で紋枯病と穂枯れ（ごま葉枯病菌）にも有効。
－	【倒伏軽減剤】ビビフル ※こだわり米使用不可	粉剤 DL	3kg	1	3～4 kg	1	1 回 以内	出穂 10～5 日前	－	－												節間伸長を抑制し、倒伏を軽減する。
		フロアブル	100ml		75～100ml			出穂 10～2 日前	－	－												通常散布：希釈水量 50～150ℓ/少量散布：希釈水量 25～50ℓ

- 農薬を使用する際は、必ずラベルに記載の使用基準(適用作物、使用量、希釈倍率、使用回数、使用時期(収穫前使用日数))や注意事項を確認し、使用者が責任を持って使いましょう。
- 粉剤を散布する場合は、近隣の圃場や野菜畑・果樹園等に飛散しないよう注意して散布しましょう。
- 3 割減減栽培の使用農薬成分数は 1 2 成分以内、こだわり米（5 割減減）栽培は 9 成分以内です。農薬の成分数を確認し、上限を超えないように防除しましょう。